

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和6年2月28日（水）

2 確認箇所

監視・制御装置（免震重要棟集中監視室）、測定・確認用設備（K4タンクエリア）、移送設備（多核種移送設備建屋、5, 6号機東側電気品建屋）、希釈設備（5, 6号機敷地護岸ヤード）

3 確認項目

多核種除去設備等処理水の第4回放出の状況

4 確認結果の概要

多核種除去設備等処理水（以下「ALPS処理水」という。）の第4回目の放出が、測定・確認用サンプルタンクB群を対象に、本日（2月28日）開始されたことから、放出開始操作などの状況を確認した。

なお、東京電力では、これまでの3回の放出の実績から、ALPS処理水と海水との希釈混合が設計通りに行われ、希釈後のトリチウム濃度の計算値と実測値に有意な差がないことを確認できたことから、二段階放出^{*}を一旦終了し、今回以降は一段階で放出することとし、昨日（2月27日）から海水ポンプ2台（A、B）を定格で運転している。

（図1）（写真1）（前回確認日：令和5年11月2日（第3回放出））

※二段階放出：第1回～第3回目までは、ごく少量のALPS処理水（約1 m³）を、移送設備を用いて希釈設備へ移送しながら海水（約1,200 m³）で希釈し、放水立坑（上流水槽）に貯留して、放水立坑（上流水槽）から水を採取・分析して、ALPS処理水が想定通り希釈できていることを直接確認した後に、連続でALPS処理水を移送し、希釈・放出していた。

- ・放出操作は10時10分に開始され、特段のトラブルなく、11時11分に処理水移送ポンプ（B）が起動して、ALPS処理水の移送工程が始まり海洋放出が開始された。
- ・東京電力によると、今回のALPS処理水放出予定量は約7,800 m³であり、放出期間は約17日間とのことである。

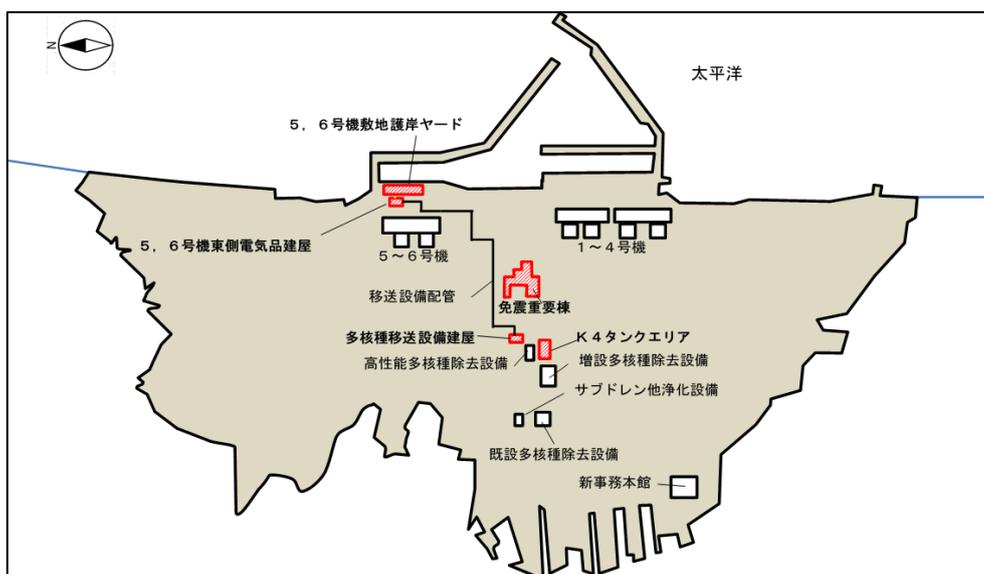
<免震重要棟集中監視室における操作状況>

- ・操作指揮者の指示のもと、操作手順書に従い二人一組の操作員が、復唱及び指差呼称による確認をしながら監視・制御装置の操作を進めていた。
- ・システムのライン構成及び現場における弁状態等の確認終了後に、当直長管理の「移送許可キー」を使用し、「ALPS処理水移送許可キースイッチ」をONにして、「サンプルタンクB群移送工程」が開始された。

- ・ALPS処理水の放出に当たり、漏えい検出器の作動やその他の警報発生はなかった。

<系統のライン構成・設備状態確認の状況>

- ・サンプルタンクB群における系統のライン構成は、操作手順書に従い、複数人で指差呼称による確認をしながら、弁の開閉状態の確認や手動での全開操作を行っていた。（写真2）
- ・ALPS処理水移送ポンプ（B）起動後に、移送系統の状態確認を行っていた。処理水移送ポンプや移送系統の配管等に、漏えい等の異常は認められなかった。（写真3）



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)

K4タンクエリアの概観

(南西側から撮影)



(写真1-2)
多核種移送設備建屋外観
(南西側から撮影)



(写真1-3)
海水移送配管等の状況
(南東側から撮影)



(写真1-4)
放水立坑(上流水槽)の状況
(北西側から撮影)



(写真2-1)
サンプルタンクA群の払出元弁の状
態(「全閉」)確認の状況



(写真2-2)
サンプルタンクB群の連結弁「全
開」操作の状況



(写真 3 - 1)
 処理水移送ポンプ (B) の確認状況
 (多核種移送設備建屋内の北東側から撮影)



(写真 3 - 2)
 処理水移送設備移送配管等の確認状況
 (5, 6号機東側電気品建屋内の西側から撮影)



(写真 3 - 3)
 海水移送配管の状況
 (北側から撮影)



(写真 3 - 4)
 海水配管ヘッダ等の状況
 (北西側から撮影)

5 プラント関連パラメータ確認
 各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。